

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料1-2

令和2年1月 日

協議会名: 長久手市地域公共交通会議

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
Nーバス	7路線	前回の評価結果は、現網形成計画の評価を踏まえ、広域性を視野に入れた計画策定・推進を期待、尾三地区広域公共交通網に向けた取組みの評価と南北の広域幹線軸の構築を踏まえて、関係市町と連携した広域的な公共交通ネットワークの構築を期待、相次いでオープンした大型店舗の影響によるバスの遅延を踏まえた渋滞対策であった。	A 平成28年4月1日の路線見直し以降運行を続けている。	前年度の評価対象期間と比べた利用者数と1便当たり利用者数は対前年度を下回っている。 道路渋滞による遅延解消、乗務員の乗務時間の法令遵守のため、Nーバスの減便を伴うダイヤ改正が影響している。 【平成30年度(H29.10~H30.09実績)】 利用者数:261,772人/年、1便当たり利用者数:9.9人/便 【令和元年度(H30.10~R1.09実績)】 利用者数:247,729人/年、1便当たり利用者数:9.8人/便 【目標:2023年度】 利用者数:271,000人/年、1便当たり利用者数:11.4人/便	令和元年度に実施した利用実態調査、アンケート調査結果を分析し、令和3年4月以降にNーバスの路線見直しを目指す。また、Nーバスの路線見直しや定額乗合タクシーの本格運行に備え、Nーバス及び定額乗合タクシーの見直し基準の具体化に向けて検討を行う。	
中央循環線右回り(名鉄バス)	市役所~市役所	それに対し、広域的な公共交通ネットワークの構築の対応として、尾三地区の現状や課題、公共交通基礎調査の結果の分析から、今後の展開などについて協議を引き続き行い、広域性を視野に入れた計画策定・推進の対応として、尾三地区のコミュニティバスのオープンデータ(GTFS形式)を整備した。	A 平成28年4月1日の路線見直し以降運行を続けている。	前年度の評価対象期間と比べた補助対象路線の利用者数と1便当たり利用者数は、対前年度を下回っている。 道路渋滞による遅延解消、乗務員の乗務時間の法令遵守のため、Nーバスの減便を伴うダイヤ改正が影響している。 【平成30年度(H29.10~H30.09実績)】 利用者数:48,537人/年、1便当たり利用者数:12.3人/便 【令和元年度(H30.10~R1.09実績)】 利用者数:47,661人/年、1便当たり利用者数:12.1人/便	市民主体で子ども向けのイベントを検討する「公共交通応援隊キッズイベントグループ」が、公共交通に関するイベントにおいて市内公共交通の周知及び利用拡大を図るとともに、企業と連携しリニモでの来店者にポイント付与等のインセンティブ付与によって、公共交通での来店促進に引き続き取り組む。	
中央循環線左回り(名鉄バス)	市役所~市役所	渋滞への対応として、市民が主体となり公共交通に関するイベントを実施し公共交通の利用促進を図るとともに、道路渋滞による遅延の解消、乗継改善、乗務員の乗務時間の法令遵守のため、平成31年4月1日に所要時間を延長するダイヤ改正を実施した。	A 平成28年4月1日の路線見直し以降運行を続けている。	前年度の評価対象期間と比べた補助対象路線の利用者数と1便当たり利用者数は、対前年度を上回っている。 【平成30年度(H29.10~H30.09実績)】 利用者数:46,634人/年、1便当たり利用者数:11.8人/便 【令和元年度(H30.10~R1.09実績)】 利用者数:43,146人/年、1便当たり利用者数:11.5人/便	広域的な公共交通ネットワークの構築については、尾三区域内の市町が連携して広域公共交通網を整備することにより、地域価値の向上を目指す。	
三ヶ峯線平日便(名鉄バス)	市役所~市役所		A 平成28年4月1日の路線見直し以降運行を続けている。	前年度の評価対象期間と比べた補助対象路線の利用者数と1便当たり利用者数は、対前年度を上回っている。 【平成30年度(H29.10~H30.09実績)】 利用者数:32,564人/年、1便当たり利用者数:11.3人/便 【令和元年度(H30.10~R1.09実績)】 利用者数:33,168人/年、1便当たり利用者数:12.3人/便		
三ヶ峯線土休日便(名鉄バス)	市役所~市役所					

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和2年1月 日

協議会名:	長久手市地域公共交通会議
評価対象事業名:	陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>①市内の公共交通網は、軌道系のリニモが東西方向の移動軸として市域を横断し、民間の路線バスが名古屋市内の地下鉄駅、市内の主要施設、周辺の大学など、市西部地区の移動軸として、東西方向の移動に対応した路線網となり、隣接市町の境界をまたいでいる。また、市営のコミュニティバス(Nーバス)が市内の移動の足を確保するため、民間のバス路線を補完する形で路線網を形成している。</p> <p>②リニモ沿線では大型商業施設の開業や区画整理の進展による交通流動の変化や更なる人口増加が見込まれるため、自家用車に過度に依存せず、リニモ、名鉄バス(路線バス)、Nーバス、タクシーの各公共交通が一体となった使いやすいネットワークと利便性の高い公共交通サービスを提供することによって、人々の生活を支え、交流を育み、人が笑顔で、いきいきとした暮らしを支える公共交通の実現を目指す。</p> <p>③公共交通ネットワークは移動ニーズに合わせて展開し、市内外への移動拠点となる交通結節点への移動利便性の向上を目指しながら、公共交通とまちづくりとの連携を図り、将来の公共交通ネットワークの形成を進める。</p>